山陽新聞（夕刊）
2018年（平成30年）7月11日　水曜日

一日一題

行商がゆく⑥先日のこと

リゾーム専務　金藤　純子

倉敷市真備町が私の地元です。西日本豪雨災害の土曜朝5時すぎ、まび記念病院に避難し、陸の孤島となった翌日、自衛隊によって救出していただきました。この場を借りて病院関係者、自衛隊の皆さま、応援をくださった多くの皆さまに心よりお礼申し上げます。

前日、増水する高梁川の様子を見に来たご近所の方がこんなことを言われたのです。「以前、向かい岸の河川敷に芝生を敷いた直後に洪水があって流れた。しっかり根を張った後なら、少々洪水が来ても芝は生き残ったんだがね…」

金曜日夜、私は用水路があふれ始めた異変に気付き、実家の両親と犬を私の居宅に連れてきました。テレビでは避難所の小学校名が表示されていました。行こうと思いましたが、避難所では犬が迷惑になるに違いないと足が止まりました。4時、スマホの緊急災害速報の大きな音が鳴り響き、「避難指示」表示を確認、渋る両親を説得し、指定避難所の真備総合公園へ向かいました。しかし、途中で警察の方から道路が通行止めと言われ、来た道を引き返しました。他の避難所がいっぱいだとSNS（会員制交流サイト）にあったので途方に暮れ、4階建ての病院をここなら安全かと思い、なんとか入れていただけないかとご無理をお願いしたのです。

滞在30時間に屋上から目にした信じがたい光景。水かさはどんどん増えて病院2階にまで迫り、周囲はさながら海のようで、いろんなものが漂流していきました。周辺の戸建ての2階窓やスーパーの屋上に多くの人が残され、ハンカチを振って救助を求めているのが見えました。

リゾームという社名の意味は「根っこ」です。根茎は地下に広がり、結びつき、地上にハスのごとく美しい花を咲かせる役割です。根を張れ、しっかりとした結びつきを持つのだよ、という声が聞こえてきました。

2018・7・11